

IV 大学院教育

[概要]

国立歴史民俗博物館には、総合研究大学院大学日本歴史研究専攻が設置されている。総合研究大学院大学は、全国の大学共同利用機関を基盤機関とする大学院大学であり、日本歴史研究専攻は、その文化科学研究科に属する専攻の一つである。3年間の博士課程（後期）のみで、定員は3名である。

当専攻では、基盤機関の特性と利点である、最先端の多彩な共同研究が実施されている研究環境と、膨大な資料とすぐれた設備を有する博物館の機能を活用して教育が行われている。

当専攻の目的は、広義の日本歴史の分野に関して、広い視野および国際的な通用性を兼ね備え、特定の専門分野について資料に基づいた高度な研究を行える研究者および高い研究能力をもって社会に貢献できる人材を育成することである。そのために、広義の日本歴史およびその隣接分野の研究主題について強い関心をもち、自主的で持続的な研究活動を通して、自立的な研究者として成長する意欲をもつ学生を求めている。またその研究成果が社会の具体的な場に生かされ、還元されるという意味で、社会人学生の入学も歓迎している。

授業は、資料から歴史像を構築するという基本理念に基づき、大きく「資料研究系」と「社会史研究系」に分けられ、原則として各教員が一つずつを担当している。

このほか、夏期には集中講義を開催している。A＝資料の調査と活用、B＝地域研究の方法、C＝博物館コミュニケーション論の3つのコースと歴博が推進している総合資料学と連動した集中講義Dがあり、「学術資料マネジメントコース」として、総研大の全学および学外にも開かれた教育の場となっている。なお、集中講義AとCは隔年の開講である。2022年度は、集中講義Aを6名（うち他専攻6名）、集中講義Bを10名（うち他専攻8名）が受講した。

博士論文の作成に当たっては、複数の指導教員が指導に当たるほか、全教員が担当する「基礎演習」を年3回開催して、進捗状況を報告させるとともに、プレゼンテーション能力の向上を図っている。また調査研究の場である博物館の現場においても、日常的に指導を行っている。

これまで集中講義Bの開講と並行して各地で開催してきた「大学院講演会」を、専攻の認知度をより高めることを目的に、2019年度より基盤機関である国立歴史民俗博物館で開催している。具体的には、専攻の修了生とその指導教員が講演・鼎談を行い、専攻で行われている先端的な研究と教育を紹介する場としてきた。今年度は2022年6月11日に「考古が中世史を変える」と題した講演会および大学院説明会を歴博講堂で開催した。なお、2022年10月16日には対面およびオンラインにて大学院説明会を実施し、歴博において教員7名が対応するとともに、ホームページにも概要を掲載した。

2022年度は1名が入学した。2022年4月現在、専攻の在學生は12名であり、うち社会人学生は7名である。

日本歴史研究専攻 専攻長 松木 武彦

[2022年度日本歴史研究専攻科目一覧]

教育研究指導分野		授業科目	担当教員	教育研究指導分野	授業科目	担当教員
資料研究系	歴史資料研究	古代資料研究	教授 小倉 慈司	社会史研究系	古代技術史	教授 藤尾慎一郎
		中世資料研究	准教授 田中 大喜		中世技術史	准教授 村木 二郎
		近世資料研究	准教授 福岡万里子		近世技術史	准教授 澤田 和人
		近現代資料研究	教授 樋口 雄彦		生態環境史	准教授 松田 睦彦
		金石文・出土文字資料研究	教授 仁藤 敦史		民俗環境論	
		考古資料研究	教授 林部 均		村落伝承論	教授 小池 淳一
		民俗誌研究	准教授 青木 隆浩		都市伝承論	准教授 川村 清志
	資料論・展示研究	物質文化資料論	教授 山田 慎也		信仰伝承論	教授 松尾 恒一
		民俗文化資料論	教授 関沢まゆみ		映像記録論	教授 内田 順子
		画像資料論	教授 三上 喜孝		日欧物質文化交流論	教授 日高 薫
		美術工芸資料論	教授 大久保純一		日欧政治交渉論	准教授 福岡万里子
		歴史展示研究			アジア政治交渉論	教授 高田 貫太
	分析・情報科学	分析調査論	教授 齋藤 努		アジア物質文化交流論	准教授 上野 祥史
		年代資料学	教授 坂本 稔		I (1年生対象)	
		資料保存科学	准教授 小瀬戸恵美		II (2年生対象)	
		歴史情報科学	教授 鈴木 卓治		I	
社会史研究系	社会論	古代社会論	教授 松木 武彦	基礎演習 論文指導	II	
		中世社会論			I	
		近世社会論			II	
		近現代社会論			A (資料の調査と活用)	
					B (地域研究の方法)	
				集中講義	C (博物館コミュニケーション論)	
					D (総合資料学)	

[2022年度在籍院生研究課題一覧]

入学年度	氏 名	研究課題
2016年度	芳野 貴典	諷誦文の歴史民俗学的研究
2017年度	西原 彰一	沖縄近現代史における「なまえ」についての複数の方法による研究オーラルヒストリーを一つの柱として
	森田 大介	室町期の地下官人の研究
2018年度	秦 文憲	戦後日本社会の構造を明らかにする—サラリーマンを中心として—
2019年度	牧野 由佳	梯子獅子の民俗学的研究
	前山 和喜	科学技術計算と大型計算機の利用—HITAC5020を中心として—
2020年度	大和あすか	摺物および地方版画に用いられた技法材料の研究
2021年度	荒田 敬介	弥生時代の集団関係と武力衝突
	クレインス桂子	初期平戸オランダ商館の日本における活動と貿易構想
	前野 智哉	奈良・平安時代における物部氏の研究
	山本 由梨	近代日本の女性と美人画—制作・鑑賞・美容—
2022年度	山田 琴子	技術の組織化から見た東日本の地域社会の形成過程の復元

[特別共同利用研究員]

国立歴史民俗博物館では、大学の要請に応じ、当該大学の大学院学生で、文献史学、考古学、民俗学および自然科学を含む関連諸学に関する分野を専攻する者に対し、必要な研究指導を行っている。

修了者一覧

氏 名	研 究 課 題	受託研究系・指導教員	委託大学院及び指導教員
津金 滯乃	老いの民俗をめぐる比較研究	研究部民俗研究系教授 関沢 まゆみ	國學院大學大学院文学研究科 文学専攻 准教授 服部 比呂美
呉 竹雅	近代における日本の伝統工芸の活用による地域振興に関する研究—民衆生活との関わりを中心にして—	研究部民俗研究系教授 松尾 恒一	千葉大学大学院融合理工学府 創成工学専攻 教授 植田 憲